ニュースレターくまもと
# News Letter Kumamoto
秋 Autumn 2011
vol.91

■Publisher：Kumamoto International Foundation
4-8Hanabata-cho,Kumamoto City,860-0806,Japan
Tel：096-359-2121 e-mail：pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL：http：//www.kumamoto-if.or.jp/
■発行：(財)熊本市国際交流振興事業団
〒860-0806 熊本市花畑町 4-8
Tel：096-359-2121
e-mail：pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL：http：//www.kumamoto-if.or.jp/
KUMAMOTO INTERNATIONAL FOUNDATION

CONTENTS

ボランタリーライフのすすめ……1・2・3P
ボランティア……4P
ちょっといわせてはいよ……5P
世界を知る……6P
未来のために……7P
ちょっと日本語・きふブロ……8P

## ボランタリーライフのすすめ

# 私が変わる、社会は変わる

### ボランタリーライフを実践しよう

「ボランティア」(Volunteer)とは、自由な意志で共生社会のために貢献する人を表現した言葉です。また、その行動を「ボランティア活動」(Volunteering)といいます。

イギリスでは、ボランティアたちが複数集まって結成した組織を「ボランタリー組織」(Voluntary Organization ) と表現します。アメリカ合衆国では、その組織を法律用語として「NPO」(Non-Profit Organization=非営利組織) と表現します。
国際社会では「NGO」(Non-Governmental Organization=非政府組織) という言葉で呼んでいますが、それぞれに共通している考え方は、市民社会(Civil Society) の主役になり、営利を目的としないで、公共の利益のために貢献する組織という意味です。

国際連合は、21世紀の最初の年2001年を『ボランティア国際年』(International Year of Volunteers=IYV) に定め、21世紀は「ボランティアの世紀」であることを世界の人びとに示しました。2011年の今年は、『ボランティア国際年』から10年目になります。そのために、世界では、この10年でどれだけボランティアが世界に広まったか、社会に力を持ち得たかなど、さまざまな検証が行われています。

いま、私たち日本人にいちばん求められているライフスタイル、生活文化は「ボランタリーライフ」(Voluntary Life) ではないかと思います。人は、ひとりでは生きていくことはできません。しかし、私たちはそんなシンプルなことを忘れてしまい、自分さえ良ければいいとか、自分なんか他者のために役に立つはずはないと考えるなど、「私生活主義」(ミーイズム) をライフスタイルのまんなかにおいて暮らしがちです。(※2ページに掲載したボランティア活動に関する調査結果をご参照ください。)

日本ボランティア学習協会代表理事
昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンター長
興梠(こおろき) 寛(ひろし) さん

自分が毎朝食べている食材を誰がつくってくれているのか、その食材が安全に育つためにはクリーンな自然環境が必要です。「ボランタリーライフ」は、そのことを意識しながら生活する暮らしです。ときには、その食材をつくった人びとの暮らしについて知ろうと好奇心をはたらかせてみる。「ああ、そうだったのか。このバナナを栽培している人びとは、こんなにアンフェアーな労働条件のもとに働いていたのか」「このエビを養殖するためには、無数のマングローブの森が消えて、海辺の生態系秩序がこんなに破壊されていたのか…」「コーヒーを飲むのなら、貧しい農民の就労を手助

けするために、フェアトレード産品を選ぼう」という、できるときにできることから、他者とともに生きることを実感できる生活をおくること、それが「ボランタリーライフ」なのです。

自分の幸せは、他者の幸せ、地域社会の幸せ、国際社会の幸せがあってのものだということを意識しながら、その幸せづくりに参画する生き方こそ、21世紀のライフスタイルなのです。

**必要とされる喜びを分かちあおう**

現代の日本では、小さな子どものときから、自分自身の社会を少しずつ広げていくようなトレーニングの機会、社会的な経験のチャンスが少なくなりつつあります。昔は、大家族で暮らすのがあたりまえでした。兄弟も多く、祖父母、従兄弟、叔父叔母などの親戚とふれあう機会は多いものでした。家族を超えた隣近所のお付き合いや、子どもの遊び集団、青年会、町内会などの地域の助けあいの機会は豊富にあり“自分もみんなの役に立っている”、と実感できる生活がありました。

いま、世代を問わず“孤独感”や“孤立感”に苛まれる人びとが増えています。

若者たちは、高校や大学を卒業して大切な出発点に立ったとき、「自分はどんな職業を選択すればいいのか」「いったい何を目標に生きていけばいいのか」「どんな人生設計をすればいいのか」という自分の現実にぶつかります。「小さな社会」に生きてきた若者たちが、突然「大きな社会」のなかで自分の人生を見つけ出していかなくてはならない現実をつきつけられます。そんなときに、私はこうアドバイスします。自分の個性を肯定的に見つめて、その限りない可能性を活かしながら、自分らしい生き方を発見していく…「どんな人間になるか」を追い求めていく生き方をしようと！もし、私たちが受験や仕事で失敗することがあっても、人間関係のなかでストレスを感じることがあっても、競争社会のなかで負けたと実感することがあっても、「どんな人間になるのか」を追い求めていく自分さえいれば、それを乗り切ることができます。

答えはシンプルなものです。他者や社会の役に立つ何かをしてみることです。不安になったら「動く」（Do！）ことです。勇気をふりしぼり、「自分の力で動く」（Do it yourself!）です。自分を発見したければ、小さな自分の部屋に閉じこもっているのではなく、行動してみることです。動いて、動いて、動きまわって、さまざまな人びとの生き様を知り、学ぶことです。そして、他者や社会に“必要とされる自分”を体感することです。

アメリカ合衆国の作家、ジョン・スタインベックは「少年は、必要とされてはじめて大人になる」という言葉を残しています。人は、他者や社会から”I need you”といわれることをとおして、はじめて自分の生きることの意味、自分自身の存在の意味を知ることができるのです。

※ボランティア活動に関する調査

1.『生涯学習に関する世論調査』（内閣府2005年5月）

| | 15歳～19歳(1993年) | 20歳以上 |
|---|---|---|
| ボランティア活動に参加したことがある | 55.3%(38.3%) | 44.2% |
| ボランティア活動に参加してみたい | 72.7%(66.7%) | 59.6% |

2.『第7回世界青年意識調査』（2003年）

| ボランティア活動を | 現在活動している | 以前したことがある | 全くしたことがない | わからない |
|---|---|---|---|---|
| 日本 | 3.3% | 31.7% | 63.2% | 1.8% |
| 韓国 | 5.0% | 42.6% | 50.8% | 1.7% |
| アメリカ | 21.0% | 40.4% | 36.1% | 2.5% |
| スウェーデン | 19.9% | 23.4% | 52.3% | 4.5% |
| ドイツ | 8.2% | 14.4% | 72.9% | 4.5% |

# Anything is better than Nothing

**東北 宮城県石巻市へ**

車に揺られること21時間、宮城県石巻市へ行ったのは、友人の誘いがきっかけです。ゴールデンウィークに特に予定も無かったので、軽い気持ちで参加しました。仕事は家屋の掃除が主でしたが、避難所で家族を失った子どもたちのベビーシッターをしたり、津波で流された美術館の所蔵品を探す作業を手伝ったりもしました。最も印象に残っているのは、家の掃除です。天井まで泥やごみで埋まり、海と死の匂いがたちこめていました。アメリカでは通常マスクをつけることはないので、私も最初は必要ないと思っていたのですが、この活動には不可欠でした。津波で母と妹を失った40代の男性の手伝いをしていたときのことです。まだ死体が発見されていないので、家の特定の部分へは行かないでほしいと言われた時は、慰める言葉もみつかりませんでした。

**被災地の現実**

大災害と多数の死者…泥と海と死の匂い。それでも変わらぬ美しい海や空、人々の親しみやすさと助け合い、しかしそこにある不気味なくらいの静寂さに、言葉では言い表せない複雑な感情になり、正直最後は帰りたくてたまりませんでした。もちろん私たちは、この5日間が終われば、自分の元の暮らしに戻ることができます。しかし東北の人々は、常にこの情況と戦い続けなければならず、逃げることもできないのです。その精神的苦しみがどれほど大きいのか、想像もつきません。一軒の家の片付けを2日間、10人総出で手伝いましたが、終わりませんでした。物資はもちろん必要です。でもそれよりもMan Power（人の力、人手）が必要だと感じました。

植木中学校英語指導助手（ALT）
アメリカ合衆国出身

**リオ・ブロムバーグさん**

**私たちに出来ること**

自分で体験して分かったことですが、ボランティア活動には、“人”がいるだけで“国”は関係ありません。笑顔・泣き顔が見えるだけ、人が人を助けるだけです。右手が傷つけば、左手で助ける、それが正しく自然なことです。普通は常日頃から人助けを実践するのは難しく、つい「自分じゃなくてもいいかな」と思ってしまいます。もし身の回りの人がボランティア活動をしたいと言ったら、止めたり批判したりせず、その尊い気持ちを尊重してほしいと思います。

東北へ行ったことは、「身近な問題を無視していないか？」と自分に考えさせてくれました。決して遠くまで探しに行く必要はありません。社会の良い一員になること、自発的に他者のために行動を起こすこと、それがボランティアです。人のためにドアを開けたり、食事を作ったり、マッサージだってボランティアになります。そして子どもたちは大人を見て成長していくので、私たちが良くなっていくことで、次の世代も変わっていきます。映画「ペイ・フォワード」のように、どんな小さなことでも、良い影響はつながり、少しずつ世界は変化していくのです。

マスクと作業用ゴーグルをつけて、美術館の所蔵品を探しています。

大学の敷地内にある、ボランティア事務局のそばに寝泊まりしました。

墓地に車が突き刺さっています。津波の破壊力を思い知らされます。

# 第6回 国際ボランティアワークキャンプ in ASOを開催して

第6回国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
実行委員長　岩木陽平君（県立熊本高校2年）

今年で6回目となる「国際ボランティアワークキャンプ（以下ボラキャン）」が8月7日（日）～9日（火）の2泊3日で国立阿蘇青少年交流の家にて開催されました。このボラキャンは、一部を大人の方々のサポートに頼ることもありましたが、企画・運営を高校生の実行委員が主体となって行いました。留学生の方々や大学生の方々にも参加、協力していただきましたが、参加者もほとんどが高校生でした。

開会式のあいさつをする岩木実行委員長

ボラキャンを一言で説明すると「若者が考える場」だと思います。まず、実行委員となった高校生は企画の段階で、2泊3日の春合宿を行い、全体プログラムや各分科会の内容について話し合います。また、本番までにどんな準備が必要で、どんな資料を用意するかを考えます。当日は、参加者と一緒に分科会に分かれてそれぞれのテーマについて考え、話し合います。今年のボラキャンでは「福祉」、「環境」、「食」、「ボランティア」、「伝統文化」、「国際交流」、「多文化共生」の7つの分科会に分かれて、高校生が日常生活の中でできる活動について話し合いました。先程も言いましたが、ボラキャンは参加者に「考える・興味を持つきっかけ」を与える場だ！と思います。参加者の方々がボラキャンをきっかけとして、帰ったあとも何かしらのアクションを起こして、毎月の「Smile Station」の活動へとつながっていくことを期待しています。

今年は例年に比べ、応募人数が多く、参加者も去年に比べたらかなり増えました。今後も回を追うごとにおそらく参加者の規模も増えていくと思います。一方で、主体となる高校生実行委員は毎年メンバーが入れ替わります。今後はまた去年とは違うメンバーによる新しい実行委員となりますが、私も、今後はボラキャン実行委員OBとして何かしらの形でサポートさせていただきたいです。

全参加者での記念写真

SkypeでボラキャンOBからアドバイス

# 「Smile Station」とは

第6回国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
副実行委員長　黨翠さん（県立熊本高校2年）

「Smile station」とは第4回ボランティアワークキャンプから発足した、熊本の高校生がボランティア情報を交換し、実際にボランティア活動をしていく場所です。

毎月第一土曜日の午後に熊本市国際交流会館でミーティングが行われています。楽しい仲間たちと一緒に、他ではできない貴重な経験をすることができます。具体的な活動として、「国際ボランティアワークキャンプ」の企画・実行・参加、「募金活動」や「ゴミ拾い」を始め、いろいろなイベントへのボランティア参加や、ドイツ・インド等、海外の若者とインターネットを使ったテレビ電話を通して国際交流などの活動をしています。最近の活動では、10月に国立阿蘇青少年交流の家で行われるタイの青年との交流「ヒゴタイ交流プロジェクト」の企画・参加や、高校生による高校生のための便利な街中地図を作る、「まちなか案内図作成プロジェクト」などを行っています。

Smile stationは、老若男女国籍問わずたくさんの人と出会える場所です。ボランティアをしたい、という人はもちろん、もっとたくさんの友だちを作りたいひとや、自分を変えたい、そんな人たちもどんどん募集しています。ぜひsmile stationに足を運んでみて下さい!
（ブログhttp://smilestation.blogzine.jp/blog/）

Smile Station　国際交流会館

Japanese Tip ちょっといわせてはいよII

# はじめまして

熊本市
ドイツ国際交流員（CIR）
ジェシカ・ベッカー さん

皆さん、初めまして、ドイツのマルブルクから来ましたジェシカと申します。

私は、2011年8月からドイツ国際交流員として、熊本市役所で働いています。専門は心理学で、日本語はまだ勉強しなければならないところが多いので、よろしくお願いいたします。

私は2004年にワーキングホリデーでオーストラリアへ行き、日本人と一緒に住んでいました。それはすごくいい経験でした。毎晩日本とドイツの違いについて話し合いました。その時の、日本の社会、文学、歴史についての会話は決して忘れません。2007年に、初めて日本に行ったときにボランティアとして福岡の近くの「はせ」という村に行き、子どもまつりの準備をしました。そのプロジェクトの中で、高校でドイツについて発表しました。私は、日本に滞在していたときに会った日本人が大好きだったので、ドイツに戻ってから心理学に加えて日本語のクラスを取り始めました。その後、日本に関する知識をもっと学ぶため、東京外国語大学に留学しました。これもまたとてもいい経験でした。留学中の一年間、日本人だけでなく、世界各国から来た人々と友達になりました。日本での経験はどれも素晴らしいものばかりであったので、これからも日本とドイツが良い関係を続けていくために全力を尽くすつもりです。よろしくお願いいたします。

はせ村「子どもまつり」のワークキャンプに参加して。

大学時代の友人と、東京・井の頭公園で。

# 国際掲示板

## 地域日本語支援やつしろクラブ 一周年記念講演

開催目的及び内容：多文化共生に関する意識啓発と国際理解推進。J.A.T.D にしゃんた氏による講演と落語の会。（1969 年 7 月 18 日生。スリランカ出身）
タイトル「ちがいを楽しみ　力にかえる～ことばの壁をこえて～」
日　時：10 月 23 日(日)13:30 開場　14:00 開演　（15:30 終了予定）
場　所：やつしろハーモニーホール（市民ホール）
対　象：どなたでも
参加費：無料
問い合わせ先：
地域日本語支援やつしろクラブ
八代市豊原下町 4227-2
TEL/FAX　0965-35-4285（担当者　内山）

## 2011 年（第 13 期）市民講座「アイルランドの心の響き」

①開催目的及び内容：「ハーンの作品とアイルランド」と題し西忠温氏（元崇城大学教授）の講座を開講
日　時：10 月 29 日（土）14:00 ～ 15:30（90 分）
場　所：お菓子の香梅帯山店　ドゥ・アート・スペース
②開催目的及び内容：「アイルランド音楽」と題し本間康夫氏アイリッシュクリームの講座を開講。
日　時：11 月 26 日（土）14：45 ～ 16：00
場　所：熊本大学工学部百周年記念館
尚、当日はラフカディオ・ハーン（小泉八雲）来熊 120 年記念祭　講演会とシンポジウムが 13:00 ～開催されます。16:10 ～は清和文楽「雪女」の公演も予定しています。
問い合わせ先：
熊本アイルランド協会
http://www.kumamoto-ireland.org
TEL　096-366-5151（お菓子の香梅内）

## 「第18回熊本国際交流祭典」～届け被災地へ!国際交流の風～

開催目的及び内容：この祭典は、「国際交流・協力」を行っている県内の民間団体等の日頃の活動を県民の皆様に広く知っていただくことを目的として平成6年度から開催しています。18 回目を迎える今回も、ステージイベント、世界のグルメやパネルによる各団体の紹介、世界の手工芸品などのバザー、民族衣装の試着、着物・煎茶体験、スタンプラリーなどを実施します。また、今回は、「届け被災地へ!国際交流の風!」をテーマに、グルメやバザーによる収益金は東日本大震災の義援金として寄付をする予定です。
日　時：11 月 6 日（日）11:00 ～ 17:00
場　所：サンロード新市街
参加費：無料
◆◆当日お手伝いをしていただけるボランティアも募集します◆◆
下記協会HPから応募用紙をダウンロードしてお申し込みいただくか、熊本県国際協会事務局までお問い合わせください。
問い合わせ先：
熊本県国際協会事務局
TEL　096-385-4488 /FAX　096-277-7005
http://www.kuma-koku.jp/
E-mail：kuma-koku@cup.ocn.ne.jp

# 世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構（JICA）デスク熊本のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

## OK lang!（なんとかなるさ!）

平成22年度2次隊　青年海外協力隊 村落開発普及員　山田（やまだ） 麻樹（まき）さん
（任地フィリピン、熊本県出身）

OK lang！これはフィリピンの国民性を象徴する言葉で、頻繁に使われる言葉の一つです。フィリピンに来て9ヶ月目になる私も毎日この言葉を使っています。

さて、皆さんはフィリピンと聞くと何を思い浮かべられるでしょうか。･･･バナナ？海？フィリピンというと、日本のパブで働くフィリピン人女性を思い浮かべる方も多いと思いますが、フィリピンは8000程の島々から成る島国で、様々な言語と民族の入り混じる非常に多文化な国です。気候は常夏（実は少し季節の変わり目もあります）。国民性は冒頭でも述べた”OK lang”の様に、非常におおらかで寛大です。そしてスペイン植民地時代の影響からかラテンの国の様に、皆ダンスや音楽（カラオケ）が大好きです。フィリピンに赴任した当初は、彼らが”OK lang”と言うと、真剣に考えているのかと疑問に感じたり、何処でも歌っている姿に驚いたりしていたのですが、最近は彼らより私の方が”OK lang”を多く使っているらしく、”本当にOKなの？”と突っ込まれたり、バイクを運転しながら熱唱している姿をフィリピン人に笑われたりと、すっかりフィリピン人化が進んでいる今日この頃です。

そんな私の任地は、ビーチリゾートで有名な”セブ”からバスとフェリーを乗り継いで5時間のバンタヤン島という島です。白い砂浜が広がる欧米の観光客に人気の島で、私はロンガニーサ（フィリピン版ソーセージ）を作っている女性組合に配属され、その売上拡大と新商品の開発を行っています（一般に想像される青年海外協力隊の技術協力活動とは違い、マーケティングが要請内容）。今まではロンガニーサの販売拡大の為、バンタヤン島はじめ、セブシティ、マニラで顧客獲得に努めてきました。現在はプラスチックを再利用したクッションの開発に力を入れています（これはエコ＆フェアトレード商品として最終的には日本へ輸出予定）。また既存商品：ロンガニーサを日系企業の食堂でCSRの一環として取り扱って頂くという話を進めています。任地以外での活動では、フィリピン青年海外協力隊の配属先商品をインターネット上で紹介したり、定期的に開催されるバザーで販売したりする団体を設立し運営しています。活動の幅はどんどん広がりますが、配属先の組合員が自信とプライドを持って商品生産が出来る様、販売先拡大を更に進めると共に、彼らとの対話を大事にし、彼らの優れた部分をもっと伸ばしていきたいと思っています。

組合メンバーの集合写真

会計管理の指導をしている様子

事務所から見える風景

子供と遊んでいる様子

ロンガニーサ製造中

# 未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について
専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。

## 東日本大震災の支援へのバックアップセンター

前回は、仙台市における災害多言語支援センターの活動を紹介しましたが、今回は長岡市におけるバックアップセンターの紹介をしたいと思います。バックアップの意味は東北の被災地を後方支援する意味と、長岡市が受け入れた南相馬市の避難者約1，000名（介護、子育てを優先）の支援にあたる社会福祉協議会が立ち上げるボランティアセンターでの専門知識を有した団体が協働で運営する連携システムのことです。

被災地は、避難所の物資は不足状態にあるものの、支援物資を受け入れる施設や、避難所への物資を仕分けをする人員も足りないため、長岡で集荷し1箱1品目に仕分けし、要請のあった場所に直接届ける支援を実施していました。

また今回のボランティアセンターは、多様性に対応できる体制を構築しました。被災者の中には「少数の外国人」のほかに「子育て世代」、「要介護者」、「障がい者」への支援や、「情報提供」など多様な課題があり、一般的な支援だけでは対応できず、それぞれの専門的なアドバイスが求められたためです。

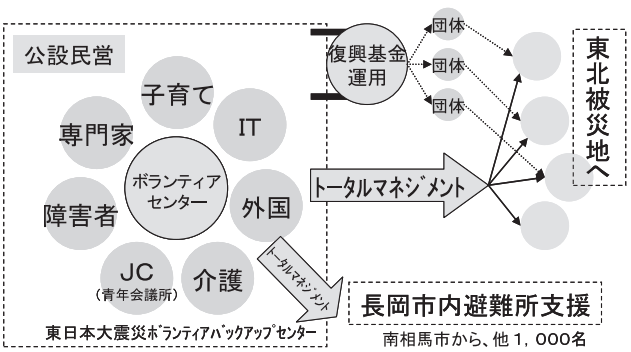
活動拠点の提供は、行政から支援を受け、実働は民間の有志で行いました。また活動資金は行政が分配する義捐金とは別に、NPOがニーズの高いところから使用できる支援金を募り、震災後5日後から現地に物資と人の輸送を開始しました。この部隊が先遣隊としての役割を担い、現地情報の収集や連携可能な団体や個人を繋ぎました。

支援のプロセスは時間の経過とともに、緊急支援から復興支援、そして地域おこし支援に変化していきました。現在は、現地のキーパーソンを主体にしたNPOの立ち上げ、中越の復興のノウハウを伝え、行政だよりではなく自分たちが主体となる復興ビジョンの作成に向かっています。

筆者:羽賀 友信さん
長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
新潟NGOネットワーク顧問
JICA地球ひろば 国際協力サポーター
長岡市教育委員、JICA専門家
※当事業団多文化共生アドバイザー

加えて、バックアップセンターの活動とは別に、復興基金をつくり個人や企業から寄付を仰ぎ多様な活動主体が20万円を上限に助成を受けられるようにしています。

最優先すべきことは、定型の支援センターの立ち上げではなく、ニーズに合わせて編成されることが重要です。




**【バックアップセンターイメージ】**
※バックアップセンターの立ち上げは、中越地震の支援で活躍した団体がお互いに学びあいながら連携システムを模索した1年間（被災時対応検討会）の成果である。


## あなたの企業も一緒に情報発信しませんか!?

この「ニュースレターくまもと」は、当事業団の機関紙として平成7年11月の創刊以来、熊本の国際交流・協力に関する情報を、日本各地の国際交流協会、国際交流・協力機関や市民、在住外国人の方々を中心に幅広く発信し、国際交流・協力に感心を持つ人、開発教育関係の教育者、留学を考えている人、異文化理解に興味を持つ人など、多くの方々にご愛読いただいています。

＊web でも公開しています。( http://www.kumamoto-if.or.jp/ )

発行:年4回 (4月、7月、10月、1月) 部数: 3,000部

配布先:市内の小・中学校、高校、大学、全国の国際交流協会、市内の国際交流・協力団体、当事業団のボランティア登録者及び賛助会員 (約500名)、熊本市役所関係機関 (市民センター、公民館等)、熊本市国際交流会館内

広告の種類:1/4ページ (この広告募集のサイズです。)

契約期間及び料金:単発 (1回) 20,000円、半年契約 (2回) 30,000円、年間契約 (4回) 40,000円

Japanese Tip
# ちょっと日本語　「日本語を教える」とは

NPO法人日本語サポートあさ
代表　小川　ひろみ さん

日本語を教えるという場面は今、日本語学校だけでなく様々な日常でおこっています。日本語が上手になるためにはどうしたらいいか」の質問に、ほとんどの方は「話す機会をつくる」と答え「日本語の何が大切か」の質問にも「コミュニケーション」と答えます。ところが、いざ日本語を教える場面では文法を解説したり、言葉を説明したり、ほとんど指導者がひとりでしゃべっている場面が多くて、いっていることとやっていることは正反対。「教える」という言葉がよくないのかもしれません。コミュニケーションに最も必要なのは伝えたい「内容や場面、状況」であり、その中での「やりとり」を繰り返すことによって、上手になっていく方法や過程を忘れてはならないと思います。

## きふブロ「ものづくり」

9月15日から11月25日まで、ここ国際交流会館で、インターンシップをしている韓国　テグ出身の大学生　ユンです。

今日は国際交流会館、地下2階であったものづくり教室に参加しました。イグサを使っての小物入れをつくりました。短時間で、ぱぱっと作ることができました。お子さんと一緒に来られたお母さんが多かったですが、とても良い雰囲気でした。ものづくりを一緒にするのも教育にいいのではなでしょうか。楽しかったです。同じ大学生のイさんも一緒にインターンをしています。

10月14日（金）13:00から韓国を紹介するサロンもありますので、是非、いらしてください。

# ☆平成23年度 賛助会員募集!!☆

（財）熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、国際交流会館駐車場の割引特典や、当事業団主催講座の受講料会員割引特典もあります。

**①個人会員　　一口　2,000円/年（一口以上）**
**②団体会員　　一口　10,000円/年（一口以上）**
平成24年3月までの会員期間となります。

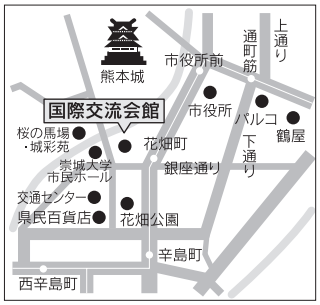
**＜入会のお申し込み・お問い合わせ＞**
（財）熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806　熊本市花畑町4-8 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020　FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

**継続・新規ご加入ありがとうございました**
（平成23年9月10日現在）〔個人〕50音順（敬称略）

青柳　太
石坂　康
井芹　志織
一村　和徳
伊藤　綾
井本　賢一
岩城　順子
岩本　司
内川　未保
江頭　瑠美
大川　滋
大山　絢子
小田　邦子
鬼木　泰永
加悦喜代美
嘉悦　覺
加悦　豪
風戸　直子
勝谷　仁雄
金谷隆一郎
神永　昌孝
上村　真理
河上　橋夫
木上　浩
北口　浩之
木塚　貴浩
肝付　幸治
古賀　実
坂井　菊子
坂田　正充
策　知子
佐藤　英代
椎葉　大文
重永　晴子
島谷　仁
下村　靖
上土井加菜子
仙波　英明
高田　晋
竹原久美子
田嶋文美子
田中　康二
田中　大観
田邉　正広
辻　信太郎
寺本　貴子
徳永　享子
徳永　達郎
永家かずえ
中山　晶
永山　國博
西嶋　達也
濱石のり子
林　あずさ
原　美弥子
原田　和幸
原田　隆志
深見　丈二
福山　倫子
藤本まり子
古澤　章吾
本田　成美
前田亜紀子
前田　智美
松崎　智美
松村　直也
松本　和光
宮崎　裕子
宮地　茂樹
村上　義司
元田　千賀
森　幹雄
森塚千恵美
山下　裕貴
横山よう子
吉村　桂子

**私たちは熊本の国際交流活動を応援しています！**
〔団体〕50音順（敬称略）

阿蘇ハイランド開発株式会社
医療法人社団　愛育会　福田病院
NIコミュニケーションズ＋キャリアウェーブ
学校法人　君が淵学園 崇城大学
株式会社キャップ
株式会社県民百貨店
株式会社熊本シティエフエム
株式会社サンカラー
株式会社JTB九州熊本支店
株式会社ニュースカイホテル
株式会社北翔工業
学校法人　鎮西学園
九州産交ツーリズム㈱熊本交通センターホテル
九州農水株式会社
熊本液化石油ガス事業協同組合
熊本学園大学
熊本市教育委員会学校教育部
熊本城桜の馬場リテール株式会社
熊本市地域婦人会連絡協議会
熊本日米協会
国立学校法人　熊本大学
コスギ不動産
財）熊本市駐車場公社
志成館高等学院
下田れい子お箏教室
ディスカバリーくまもとボランティアの会
西日本電信電話株式会社　熊本支店
マルヒサ食品
㈲ビジネスマン　新熊本ホテル
London Bridge International School




●阿蘇くまもと空港より 車で45分
●熊本交通センターより 徒歩3分
●熊本市電停花畑町より 徒歩3分

from Aso-Kumamoto Airport-45minutes by car
from Kotsu Center-3minutes walk
from "Hanabata-cho" tram stop-3minutes walk

**熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター**
開館時間　午前9時～午後8時
多文化共生オフィス（午前11時～午後6時）
096-359-4995（直通）
休館日　第2・第4月曜日、年末年始（12月29日～1月3日）

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
Kumamoto City International Center
Service Hours 9:00 a.m.-8:00 p.m.
Multicultural affairs office (11:00a.m.～6:00p.m.)
096-359-4995 (Dial-in)
Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec.29th～Jan3rd

Kumamoto International Foundation
■Address/4-8Hanabata-cho,Kumamoto City,860-0806,Japan
Tel：096-359-2121
e-mail：pj-info@kumamoto-if.or.jp　URL：http://www.kumamoto-if.or.jp/
(財)熊本市国際交流振興事業団
■住所／〒860－0806　熊本市花畑町4－8
TEL：096－359－2121
e-mail：pj-info@kumamoto-if.or.jp　URL：http://www.kumamoto-if.or.jp/